

本研修に参加して、学んだことや面白かったこと、次年度の研修に向けた要望等を報告いたします。

まずスウェーデンでは、Stockholm 大学や Jyväskylä 大学の学生と交流する機会が多く、充実した時間を過ごすことができました。特に発表は、比較的狭い教室で、コの字型に座っていたこともあり、とても穏やかで笑顔あふれる雰囲気が心地よかったです。発表に対する質問やコメントを多くいただき、自分たちの研究に対する対外的な興味や関心を知ることができました。何人かの留学生は、Stockholm 市街の観光にも同行してくださいました。かなりのご負担をお掛けしたことと思いますが、彼らと話すなかで新たな交友関係を構築することができたと実感しています。

またこれらは、英語で発表する良い練習になったことは言うまでもありません。国際交流室でアンジェさんにもご指導いただき、国際交流室の利用の仕方がわかり、今後もアクセスがしやすくなりました。添削では、英文チェックだけではなく、英語のパワポを作成するコツなど細部にわたるアドバイスをしていただきました。プレゼンテーションにおける作法を改めて学ぶ機会でした。

本研修で私にとって最も印象的だったのは学校訪問です。次年度も積極的に継続していただきたいと思います。私は郊外の小学校へ行きました。子どもたちがとても可愛く、癒されたのはもちろんですが、学校の施設や設備を見学するだけでも日本との学校文化の違いを鮮明に捉えることができました。訪問した小学校で印象的だった学校環境の違いをひとつ紹介すると、それは子どもたちの「居場所」がたくさんあることです。多くの場合、日本の学校では“自分の学級の自分の席”が唯一の居場所です。授業中も休み時間も、座っているのは“自分の席”ではないでしょうか。それ以外に居場所をつくることができるのは、保健室や図書室だと思います。しかしながら、訪問先の学校では至る所にソファが配置され、休み時間に子どもたちがソファで寝転んだり、ソファの周りでふざけ合ったりする姿がありました。そのような設備は、たとえば教室に居られなくなった時にソファで心を落ち着けることができます。先生と生徒がソファで話す時には、視線を合わすことができます。私は、日本の学校設備では得られにくいケアの関係性や雰囲気を創造することができるのではないかと感じました。良いなあと思った設備をもう一点補足すると、男女共有で完全に個室のトイレが複数配置されていたことです。一人ひとりのプライバシーが守られていて、性の多様性やジェンダー平等に配慮されていると思いました。

小学校訪問では、先生方からのプレゼンテーションもありました。そこで印象的だったのは“**How did this person view his/her mission?**”のスライドです。そこには一枚の写真（コンクリートで舗装された道路の道路脇から倒れた木がはみだして、その木に合わせて白線がすこし曲がっている写真）が掲載されていました。それが意味するのは、倒れた木が邪魔なのではなく、舗装された道路は人工的に構築したものであるという気づきです。スウェーデンの先生方が、何らかの学校文化や規範は構築されたものであり、目の前の子どもと向き合うなかでそれらの枠組みを問い直そうとする姿勢を感じました。日本の学校現場に

においてそのような視点は希薄ではないかと思いました。スウェーデンの小学校見学では、子ども一人ひとりが個人として、環境的にも教育的にも尊重されていると感じました。

ここからは次年度を見据えた要望を述べたいと思います。

- ①フランスでのユネスコや OECD 訪問は大変貴重で、とても楽しかったです。しかしながら事前になにをするのかという情報が乏しすぎて、ほとんどの学生が訪問先のプロジェクトについて何も知らない状態で臨みました。OECD では、各々の OECD のプロジェクトに対する興味関心を聞かれましたが、ほとんどの学生が答え難かったという状況はもったいなかったと思います。研修の具体的な内容の事前開示をお願いしたいです。
- ②本研修に参加する学生が、一堂に会して自己紹介をしたり、研究関心を交流したりする場があるとよかったです。それは研修の制度的な募集枠を超えた交流があったらよいと思います。長期フライトで席が隣だったり、1 週間の宿泊が同室だったりするので、初対面ではない方がいいのかなと思いました。
- ③前年度の参加者から直接経験談を聴く機会もあれば良かったと思います。現地のことを事前に調査するのは個人の責任かもしれませんが、準備するとよいことや、持っていきべきアイテム等の経験もあわせて交流できたらよかったですと思います。参加者の中には、スウェーデンがクレジットカード社会であることを知らずに、困っている方もいらっしゃいました。説明会を催す際に、前年度の経験者の話を聴く機会を組み込んではどうでしょうか。